

「旅の力」を結集し、次のステージへ “We Act for Kumamoto and France”



変わることなく日本人旅行者を待つフランスのシンボル「エッフェル塔」

公益社団法人日本観光振興協会(日観振)とJATAは9月22日から25日までの4日間にわたり、今年で3回目となる「ツーリズムEXPOジャパン2016」を東京・有明の東京ビッグサイトで開催します。8月21日のリオデジャネイロ・オリンピック閉会式で東京に五輪旗が引き継がれた直後に、日本で開かれる大型国際イベントとして注目される中、いよいよ「2020年」に向けてスタートを切ることとなります。

官民連携の「中核イベント」に

「旅は変える。人生を。世界を」をテーマに掲げる「ツーリズムEXPOジャパン2016」は、2014年の第1回から数えて3回目を迎え、ジャンプの年として更なる飛躍を目指します。

今年、スポーツ庁と文化庁、観光庁、日本政府観光局(JNTO)、日観振、JATAの官民連携によって、9月21日から1カ月間にわたり「ジャパン・トラベル・マンス」が展開されることから、「ツーリズムEXPOジャパン2016」は、そのキック

オフを飾る中核イベントとしての役割も担う形となります。

「旅の力」を結集する「ツーリズムEXPOジャパン」は、ジャンプの年に、改めて、その大きな意義を確認しながら、次のステージへの高みを目指します。

一方、欧州各地で相次いだテロ事件や今年4月に発生した熊本地震など、様々な事件事故や自然災害がツーリズムへの逆風となる事態も生じています。

「ツーリズムEXPOジャパン」では、急激な市場環境の変化による交流の低迷などに対し、大きな注目を集める大型国際観



2019年のラグビーW杯までに元気な姿の復活を目指す熊本城天守閣



日本橋の夜空に浮かび上がることになる秋田の竿燈



ハイヤ踊りが日本橋を練り歩き「熊本の元氣」を発信



勇壮な彫刻で飾られた「鹿沼秋まつり」の屋台

光イベントとして、旅行需要の回復や旅行市場の活性化に資することを目指し、「私たちは観光イベントを通して、国・地域をサポート」We Act for Kumamoto and France」をテーマにも打ち出しました。

フランスからは、フランス観光開発機構が2011年の「JATA旅博」以来6年ぶりの出展を実現し、日本人旅行者の需要回復を図ります。ブース内に40席程度のスペースを用意して一般向けと業界向けに終日セミナーを実施するほか、ブースの仕切り壁や周辺の柱面などを活用して写真展を開催するなど、具体的な情報やビジュアルを提示することで、改めて、フランスの魅力アピールする予定です。同機構の金田レイフ・プロモーションマネージャーは、「ポイントで質の高い情報を積極的に提供し、目的の明確な旅行需要を着実にアプローチしたい」と語り、意識の高い来場者への訴求に意欲を示しています。

また、「ツーリズムEXPOジャパン2016」の会場では、来場者による寄付参加の形でロゴブロックを使って熊本城を制作するプログラムも実施され、完成した熊本城は支援金とともに現地へ寄贈される予定です。熊本県観光連盟の会員として「ツーリズムEXPOジャパン2016」に出展する熊本市経済観光局観光交流部観光政策課の古川嘉朗課長補佐は、「全国の皆さんから寄せられている熊本への温かいエールが地元を勇気づけてくれており、レゴ

ツーリズムEXPOジャパン2016



ブルガリアの世界文化遺産「リラ修道院」



ベラルーシの世界文化遺産「ミール地方の城と関連建物群」



ジョージアの人気リゾート地・パトゥミの街の夜景

ブロックによる熊本城の制作というご支援を通じて、逆に「元気な熊本」を皆さんに伝えられる機会にさせていただければ」と期待を寄せています。

JAPAN NIGHT、日本橋を舞台に伝統文化を発信

今年のJAPAN NIGHTは、昨年が続いて「ユニークエクスペリエンス」を通じて五感に訴えるイベントを目指し、国内をつなぐ五街道の起点となる「日本橋」を舞台に開催されます。

JAPAN NIGHTでは、日本を象徴するお祭りや伝統芸能に加えて、東北や九州からもご当地キャラクターが登場するなど、日本の元気や華やかさが「日本らしいエンターテインメント」として展開されますが、今年は、東北から日本橋の夜空を彩る「秋田竿燈まつり」、九州からは佐渡おけさなどの全国に広がるハイヤ系民謡の源流である「牛深ハイヤ踊り」が披露されます。

開催地元の日本橋からは江戸時代から伝承されてきた「江戸火消し」、また、関東

を代表して栃木県鹿沼市の今宮神社祭での屋台行事「鹿沼秋まつり」の彫刻屋台も繰り出す予定です。ユネスコ無形文化遺産の登録も控えている屋台が都内で運行されるのは、初めてとなります。

日本橋にかつての賑わいを取り戻し、「豊かで潤いのあるまち」に再生することを目指して活動を続けてきている日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会の観光部長を務めるホテルかずさやの工藤哲夫代表取締役社長は、2020年に向けてスタートを切るタイミングで日本橋を舞台にJAPAN NIGHTが開催されることについて、次のように語っています。

「江戸時代から文化・商業・情報の中心地として発展してきた日本橋から賑わいが失われていくことに危機感を持って活動している我々としては、JAPAN NIGHTを通じてその歴史や文化の理解を深めていただくと同時に、将来的な賑わいづくりへの道筋を探る貴重な機会になるだろうと考えています」

日本橋が五街道の起点であることや江

戸開府からの町人の町として独自の文化を育んできたことなどは、日本国内では広く知られているものの、2020年に向けて、そういった予備知識やイメージを持たない外国人旅行者などにも日本橋をアピールしていく上で、JAPAN NIGHTの開催がこれまでの取り組みに弾みをつけることも期待されることです。

黒海沿岸諸国を特集展開で訴求

JATAが「海外旅行復活の年」と位置付ける今年、海外部門の展示では、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ブルガリア、ジョージア、モルドバ、ルーマニアの黒海沿岸6カ国のブースが特集展開され、日本からの旅行商品造成に必要な情報を手したり、現地関係者などとのネットワークを行うことができます。

黒海沿岸諸国は、東洋と西洋の両方の文化の影響を色濃く受けており、東欧の歴史や文化のショーケースとも言える国々です。今回の特集展開ブースでは、また、日本ではあまり知られていない各国の奥深い魅力を余すところなく伝える工夫が凝らされることとなります。

ベラルーシから出展するV.S.グローバル社のアレクサンドラ・チビソワマーケティングエクスパートは、「日本市場ではあまり知られていないベラルーシへの関心を高めてもらうためにも絶好の機会」と語り、「ツーリズムEXPOジャパン」での黒海沿岸諸国の特集展開ブースへの期待を表明。「洗練され

た日本人旅行者の皆さんに、直接、ベラルーシの魅力をアピールできるように来場者をブースでおもてなしたい」と意気込んでいます。

「ツーリズムテクノロジーゾーン」も設定

また、今年の「ツーリズムEXPOジャパン」展示会場では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、最先端の技術によって訪日旅行者と受入側との間のコミュニケーションをサポートする紹介する「ツーリズムテクノロジーゾーン」も設定されることになりました。

今回紹介されるのは、多言語音声翻訳アプリVoiceTra(ボイストラ)です。これは、スマートホンやタブレット端末などにインストールすると、話した内容を文字と音声で外国語に翻訳してくれます。で、世界31言語に対応しています。

このアプリケーションを開発したのは、総務省所管の国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)で、同省情報通信国際戦略局技術政策課研究推進室の越後和徳室長は、「現在、利活用実証の段階にあり、できるだけ多くの利用事例を積み上げる必要があるため、来場者の皆さんには現場で実際に使ってみていただくと同時に、企業の皆さんにはそれぞれの事業内容に合わせて、利活用する場面を想定していただいたり、将来的なビジネスモデルのイメージなども描いていただきたい」と呼びかけています。